

女性社員の育児と仕事両立へ

加藤店長（右）と木下主任



埼玉日産（佐藤友昭社長）は、育児休暇明けの女性社員が育児と仕事の両立をしやすい職場環境の仕組みづくりに取り組んでいる。今年6月、

同社は女性社員を積極的にサービスフロント業務のテクニカルアドバイザー（TA）8人を、来店客の接客で重要な役割を果たすショールームアドバイザー（SA）とし

た。彼女たちのほとんどが時短勤務という制約はあるが、配属先の店長たちからの期待は高い。

採用している。中でも、「女性ならではのきめ細かい配慮と着眼点」に着目し、来店客のニーズを把握して最適な接遇と提案を行う、女性TAの全店配置を目指してきた。同社は昨年6月、新車販売拠点全41店舗に女性TAを1人または2人の配置を完了させた。一方で、育児休暇明けの女性TAが職場復帰した際、仕事に熱心な人ほど、時短勤務に抵抗を感じていた現状が

埼玉日産 職場環境づくりに注力

あった。

同社サービス部の岡本紀明部長は、「整備技術の知識があるSAには、一つ上の接客を期待している。その結果がさらなるCS向上につながるはずだ。また、女性が店舗で生き生きと接客する姿が職場の雰囲気をも明るくし、ES向上にもプラスになると思う」と着目する。

同社では今春も新卒で女性TAを多く採用した。同部長は「今は実験段階だが、成功すれば育児休暇明けの働き方として良いモデルケースの一つになる」と期待を込める。

同社の浦和店では木下歩美主任がTAからSAに転向した。上司の加藤清彦店長は「お店は総合力でお客さまを迎える。彼女なら潜在的な代替ニーズを発掘できる」と期待は大きい。

（さいたま）